

建材 マンスリー

No.730 **8** AUGUST
2026

特集

伝統とモダニズムが融合した
日本初の環境共生住宅
「聴竹居」

編集室の商品ピックアップ

住まいに“ワクワク”をプラスする建材

注目企業を訪ねる

環境大善株式会社



伝統とモダニズムが融合した 日本初の環境共生住宅 「聴竹居」

脱炭素化への対応、エネルギー・資材価格の高騰などを背景に、自然エネルギーを最大限に生かしながら心地よく暮らせる住まいの重要性はより一層高まっている。カーボンニュートラルの実現に向けて、2030年度以降の新築住宅ではZEH基準の水準の省エネ性能が義務化される方針が示されており、昨年にはより高い省エネ性能確保のためにZEHの定義も見直された。このような流れの中、省エネや創エネはもちろんのこと、住まう人が快適に暮らせるよう、周辺環境との調和を考え、日本の気候風土に適した住まいのあり方を考えることも重要だ。今号では、重要文化財であり環境共生住宅の原点とも言われる、約100年前の住まい「聴竹居」を訪ね、これからの住まいづくりのヒントを探る。

藤井 厚二 (1888-1938) FUJII Koji



広島県福山市生まれ。東京帝国大学工学部建築学科卒業。竹中工務店に入社し大阪朝日新聞本社などの設計を手掛ける。退社

後、私費で欧米諸国を視察。当時の日本は住宅の近代化が遅れていると痛感し、帰国後、京都帝国大学建築学科に講師として招かれるといち早く建築環境工学に取り組んだ。1928年に完成した自邸「聴竹居」は環境工学による住宅研究と実践の完成形であり、「環境共生住宅の原点」として高く評価されている。

夏を快適にする パッシブデザイン住宅

夏対策を重視した藤井は通風や日射の遮蔽など、夏を快適に過ごすための工夫を随所に施した。

「例えば、畳敷きの小上がりの下にはこの地域の夏の卓越風^{※2}である西風を取り込むための導気口^{※1}を設けています。全長十数mにもなるクーリングチューブと呼ばれる主管を埋め込

を設立した藤井は、当時の日本には室内環境を科学的に研究する建築環境工学の専門家がおらず、感覚的な設計に頼っていたことに強い問題意識を持っていた。さらに、欧米視察はスペイン風邪が世界的に流行していた時期でもあり、疫学や衛生学などの知見も得て、採光による室内の保温や通風による換気効果を重視し、設計に取り込んだという。

「客室や食事室、調理室などが、南北に細長く雁行した居室を取り囲むように配置されており、伝統的な木造建築における一屋一室^{※1}の構成で、良好な通風と換気が確保されています。また、関東大震災を踏まえ、倒壊のリスクを抑える平屋建てとなっています」

住まいの実験を繰り返した 建築家・藤井厚二

京都府乙訓郡大山崎町^{おおくにぐんおおくさきちょう}、静寂に満ちた木立の中にその住まいはたたずむ。大正から昭和にかけて活躍した建築家・藤井厚二が、1928年に完成させた木造の自邸「聴竹居」^{きようちくきょ}である。日本人の感性に西洋文化を融合させるとともに、日本の気候風土に寄り添い環境との共生を目指した住まいであり、2017年に国の重要文化財にも指定されている。

『聴竹居』は藤井の5回目の自邸で、過去の自邸において蓄積した研究の成果を生かした、集大成と言える住まいです。藤井は、大正時代に9カ月にわたり欧米視察を敢行し、高水準な住宅を目の当たりにしました。明治維新以降の近代化政策で欧米の模倣が推し進められる風潮の中で、帰国後は日本の文化や気候風土に適した日本のスタンダードとなるべき理想の住宅を造りたいと心血を注いだのです」

こう話すのは、「聴竹居」を管理する一般社団法人聴竹居倶楽部で理事を務める松隈章氏だ。

京都帝国大学（現・京都大学）で初となる建築設備（環境工学）講座

※1 一屋一室：一つの建物一つの部屋とする考え方
※2 卓越風：ある地域で特定の期間に最も多く吹く方向の風



夏の日射を入れない縁側

深い軒と窓上部のすりガラスが日射を遮る。窓下の地窓を開放すると、緑豊かな庭から清涼な外気が入ってくる。木製の窓枠は、四季のある美しい庭の景色を切り取る額縁に見立てている。上部のすりガラスは縁側から軒裏が見えないための工夫でもある。また、角の柱をなくすることでより開放的な視界を実現。角の飾り棚は火打ち材の役割も担っている。

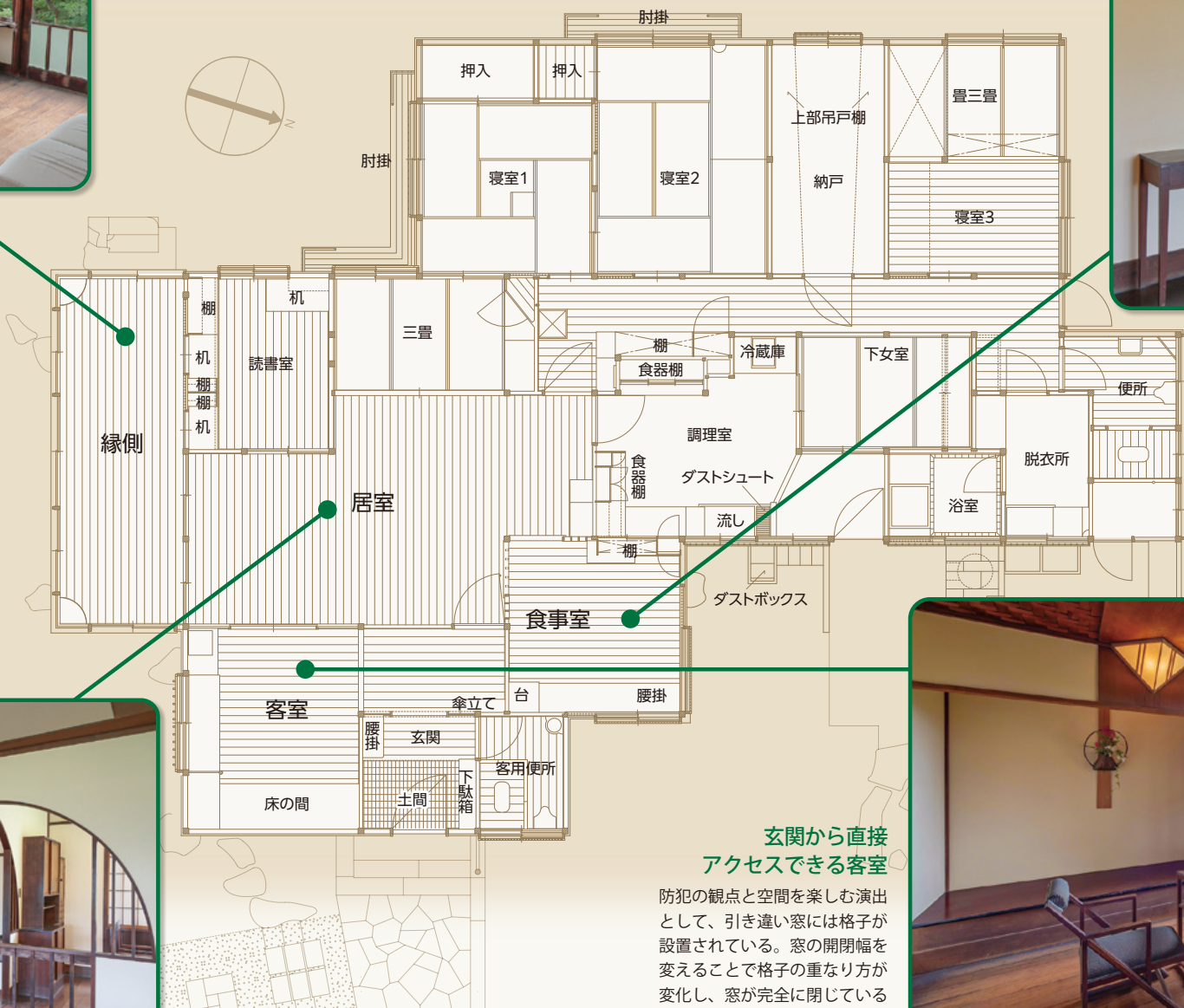
解放感と独立性を両立した食事室

扉はなく、食事室から45度方向の視線が抜けるように設計され、一室空間として人の気配を感じながらも独立性を損なわない居心地の良さを生み出している。隣接する居室よりも床を高くすることで、外からの視線と交わらないようにする工夫も。客室同様、窓の格子が開閉幅によって見え方が変化し、空間のアクセントとなる。



風通しの良い 和洋が調和した デザインの居室

風通しを良くするため細長く雁行した設計に。客室や食事室、調理室などが周囲を囲み、常に開めておく玄関や水回りとは扉で、縁側や読書室など開放する機会が多い場所とは襖で仕切られている。意匠性にこだわり、和の要素を入れた木造モダニズムを体现。



玄関から直接 アクセスできる客室

防犯の観点と空間を楽しむ演出として、引き違い窓には格子が設置されている。窓の開閉幅を変えることで格子の重なり方が変化し、窓が完全に閉じている時には一部横枠が省かれた格子が「山」の字に、完全に開くと均一な格子になる。



一般社団法人 聴竹居倶楽部 理事

松隈 章氏

1957年兵庫県生まれ。北海道大学建築工学科卒業後、竹中工務店入社。設計業務の傍ら近代建築の保存活用や建築展に携わる。「聴竹居」の建築的価値と藤井厚二の名を広めた立役者でもある。主な著書に『聴竹居 日本人の理想の住まい』『聴竹居 発見と再生の22年』『聴竹居 実測図集』などがある。

み、そこに西風が取り込まれると地中で冷やされて室内に涼しい風を送り込む仕組みです。この風は夏場でも外気温より最大7度も下がること、最新の調査で判明しました。また、天井には開閉式の排気口を設けており、熱気や汚れた空気を屋根裏に通して外に逃がす構造になっています。さらに、調理室の壁の中に設置された通風筒は、床下で冷やされた空気を屋根裏に通して温度を下げるとともに、空気を流動させる役割があります」

居室の南側に設けられた縁側は、サンルームのような役割を担っている。冬は太陽光を取り込んで室内を温め、夏は居室まで日射を届けないバフアゾーンにもなる。また、軒を深くし、窓の上部をすりガラスにすることで、太陽高度の高い夏の日射をダブルで遮蔽する。

“和×洋”が織りなす 洗練されたデザイン

自然エネルギーを活用した工夫の他、自然素材の風合いを生かし簡素で洗練された意匠が特徴の数寄屋造りと、装飾を排し機能的で合理的な造形を目指す西洋のモダニズム建築

様式を融合したデザインも注目だ。

「小上がり」の畳の床を30cmほど高くしていますが、これは居室の椅子に座った人と、畳の床に正座した人の視線が合うようにという配慮によるものです。また、徹底して意匠性にこだわり、家具を作り付けにして、仏壇や神棚などを扉付きの壁に収納する「ビルトイン」にしています。

縁側の窓は四季の景観を楽しむ額縁に見立て、上部のすりガラスにより室内から軒裏が見えない造りになっています。柱は窓枠の一部に見えるように設計して、角を削り取り少しでも目立たなくするというこだわりぶりです。さらに、数寄屋造りの建築に伝統的に用いられてきた木材や土壁、和紙といった自然素材を活用するなど、単純な欧米化ではなく、「日本の住宅」の近代化を図ったのです」

内装は和紙を重ねることで調湿効果を生み出し、外壁には調湿・断熱性に優れた土壁として「黄大津」*3を採用している。

日本人の感性と日本の 気候風土に合った住まいを

「当時としては画期的だった家族中心の空間構成にもこだわり、家族の

*3 黄大津：黄色の粘土に消石灰・莎(すさ)を混ぜた上塗り用の壁土



通気性と意匠性を高める欄間

居室と客室、居室と読書室を仕切る襖の上部には、桐板と障子による弧のデザインが美しい欄間を設け、通気を目的としながら、意匠性も高める。



光源を和紙で 囲った照明

日本人の感性に響く柔らかな光を実現。上部に蓋がないデザインで上下が抜けているため、天井を含めて360度に光を拡散するとともに、ほこりをためない合理性も実現。



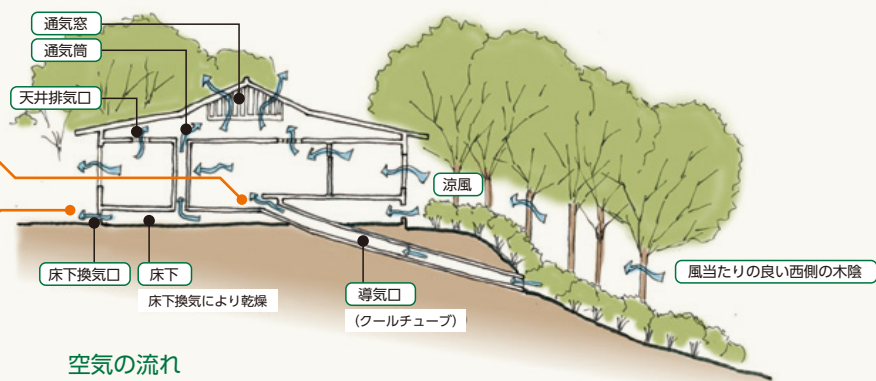
地中で冷やされた風を取り込む導気口

小上がりの畳の下に設置された導気口は開閉可能で、夏はクールチューブを通して冷却された風が吹き込み、さながら天然のエアコンのよう。



熱気や汚れた空気を 逃がす排気口

縁側の天井に設けた開閉式の排気口は、上を見上げたときに排気口が見えないよう位置が工夫されている。薄く加工した木材を平面状に編み込んだ網代天井を採用し、排気口を自然と馴染ませるデザインとなっている。



空気の流れ

外気を取り込む 床下の換気口

高床にすることで十分な通風スペースを確保。木材劣化防止にもなる。



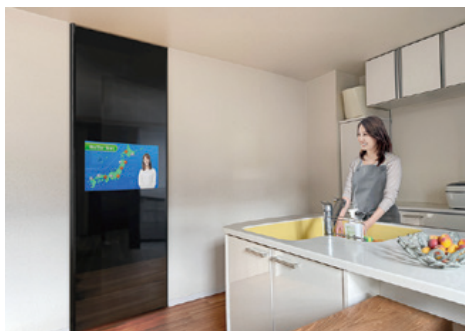
過す空間を広くして、客室は玄関から直接アクセスできる造りとしたことも特徴です。そして食事室は円弧にデザインされた間仕切り壁で緩やかに区切られ、解放感を備えつつ独立性も確保しています」

飽きのこない楽しい暮らしの実現も住まいの役割と捉えていた藤井は、天井高や天井の素材などを部屋ごとに変えている。時には床を上げて巧みに高低差をつけて空間に変化を生み出し、一室一室でありながら部屋ごとの領域分けを明確にするとともに各部屋の演出にもつなげている。

「住宅は最も重要な社会的共通資本です。住まい方はもちろんのこと、街並みや維持管理を考えた住まいづくりが大切だと思います。聴竹居の窓には障子がありますが、夜に障子から漏れる明かりが美しく、これが街並みを構成します。また、木造であれば傷んだら修繕して、しっかりと維持管理していけば長く住むことができます。日本文化を見直し、日本人としてどのように暮らしていくのか、日本人の感性と日本の気候風土に合った住まいを改めて模索していく必要があるのではないのでしょうか」

人生で一番長い時間を過ごす住まい。安全で快適な空間であることはもちろん、ときに小さな驚きや遊び心、美しいデザインなどが加わると、日常が一層鮮やかに彩られ、毎日の暮らしに楽しさが生まれるはず。今回は、空間づくりを自由に捉え、住まいに“ワクワク”をプラスできる建材を紹介する。

住まいに“ワクワク”をプラスする建材



“スクリーン”という新たな機能をプラスした室内ドア「MILAOS (ミラオス)」

株式会社 KAMIYA

天井までの高さのある同社のフルハイトドア®の中央に映像表示機能を内蔵した室内ドア。Webブラウザなどと接続することで天気・ニュースの表示、映像の再生、オンライン会議などが可能になる。空間を仕切るという従来の室内ドアの概念を変え、スマート家電の機能を有する次世代室内ドアだ。通常、室内ドアの前には物が置かれなため、どこの部屋にもあるドアをスクリーンとして活用すれば、別途モニターなどを置く必要もなくなり、省スペース化にも貢献。ドア表面には艶消しブラックの鏡面パネルを採用しており、電源OFF時にはモニターの存在を感じさせず空間に調和するデザイン性も兼ね備えている。



【仕様】

寸法：H2,373mm×W900mm×D71mm、
ロングハンドル幅111mm 重量：75kg
開閉様式：スイング戸 内蔵モニター：
LG Smart Monitor 32SR83U-W
31.5型4K UHD (3,840×2,160ピクセル)
IPSディスプレイ (チューナーレス
テレビ/モノラルスピーカー) 電源：
電源100-240V、50/60Hz ※天井裏に
電源コンセントの設置が必要
機能：AirPlay、Miracast、Web
ブラウザ、VODアプリ

【価格】

550,000円

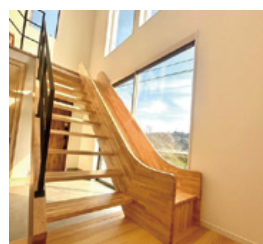
● 問い合わせ先：
株式会社 KAMIYA



家が公園になる?! 滑り台付き階段「Trunk」

株式会社タハラ

住まいのスペースや階段の形状に合わせたオーダーメイドの滑り台付き階段。階段専門メーカーとして完全自由設計での階段製作を行っている同社が、「室内で子どもを遊ばせたい」という要望に応じて開発した。階段を単なる上下階をつなぐ装置としてではなく、高い意匠性と機能性を有したインテリアとして捉え、階段の側板と滑り台の側板を一体化して空間をすっきり見せることができる。勾配が急過ぎるとスピードが出過ぎて危険になり、緩過ぎると滑らないため、階段と滑り台の勾配のバランスを試行錯誤。滑りやすさと安全性にこだわり、階段メーカーならではの高い加工技術で楽しい“おうち時間”を実現する。



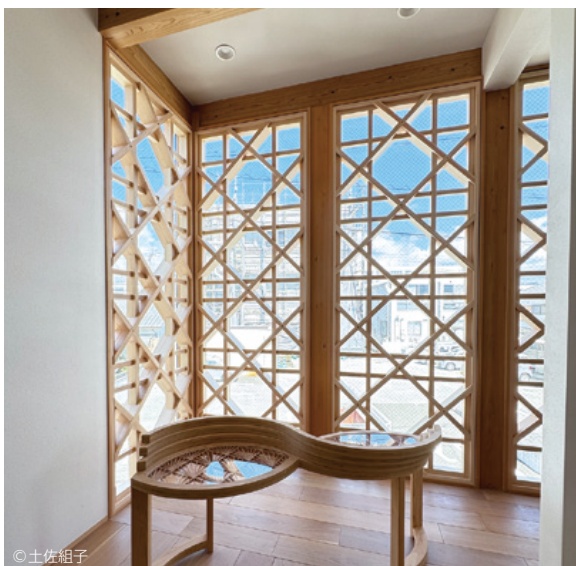
【仕様】

樹種：13種類 塗装：近似色合わせウレタン塗装、塗りつぶし塗装、自然塗装
※自由設計でサイズや仕様等応相談

【価格】

仕様により見積り

● 問い合わせ先：
株式会社タハラ



©土佐組子

伝統文様と組子技法を生かした 魅せる耐力壁「組子耐力壁」

株式会社土佐組子

飛鳥時代から続く日本の伝統的な組子細工技術と、現代の木質構造技術の融合により生まれた新しい耐力壁。ホゾなどの組手加工で組み立てる伝統的手法を構造部に応用し、縦・横・斜めの部材で構成された美しい幾何学模様の格子面が意匠性と共に強度を担保する。通風・採光性を保ちつつ、壁倍率換算性能として7~9倍の性能を実現。既存木造建築の耐震補強にも活用でき、欄間のような和の美しいデザインで魅せる壁、として用いることが可能だ。また、高知県産ヒノキを使用しており、地域産材の活用にも貢献している。施工の際にはビスで取り付けるが、木栓でビス穴を埋めることで組子細工ならではの木の風合いを維持することができる。

【仕様】

寸法 (1P型/1.5P型/2P型)：W880mm~1,880mm×H2,380mm~3,380mm×D105mm

【価格】

874,500~2,329,800円

● 問い合わせ先：株式会社土佐組子



注目企業を訪ねる

付加価値創造に挑戦

牛の尿から作る消臭液!? 環境問題の原因を資源に変える アップサイクル型循環システムを構築



代表取締役 CEO
窪之内 誠氏

本社 ●北海道北見市 端野町三区438-7
創業 ●2006年
資本金 ●1,000万円
従業員 ●26名
事業内容 ●牛の尿を環境微生物群で発酵・培養した「善玉活性水」の消臭力・土壌改善・水質改善などの効果に着目した商品開発、販売、製造

環境大善株式会社

「公害のもとが公害を制す」
廃棄物から生まれた消臭液

「北海道北見市に本社を構える環境大善が製造・販売する『きえ〜る』は、100%天然成分の安心・安全な消臭液で、特にペット関連グッズとして好評を得ている。微生物の力で生まれた液体でアンモニア臭や腐敗臭などの消臭に高い効果を発揮するが、何とその原料は「牛の尿」。公害問題にもなっていた廃棄物をアップサイクル*し、持続可能な地域経済に貢献するとして注目されている。

「創業のきっかけは1990年代、当時ホームセンターの店長を務めていた前代表である父の下に、酪農家の親戚からある相談が持ち込まれたことです。北見市は酪農業が盛んですが、牛の尿が地下水を通して川に流れ込むなどして悪臭や汚染の問題が顕在化していました。そのため尿を無害化処理

インナーブランディングで
社員の「伝える力」を強化

「エビデンスづくりと同時に取り組んだのが、リブランディングだ。全国規模の大手バラエティショッップのバイヤーの目に留まった際に「今のパッケージでは売れない」と指摘されたことから刷新を試みるが、思うように売り上げが伸びなかったことがきっかけだという。

「改めて販路拡大を模索する中、見た目を変えるだけでは伝えたい価値は伝わらないことを痛感しました。そして、企業のビジョンがデザインにも反映されてこそ、長く愛される商品になると気づかれました。それから、3年半の時間をかけて企業理念の設定や商品価値の再定義などのリブランディングに取り組みました」

「経営理念を『発酵経営』と定め、基本理念・ビジョン・行動指針をつくり、コーポレートスローガンには「地球の健康を見つめる」を掲げた。さらに、「きえ〜る」の主原料となる牛の尿を無害化した液体を「善玉活性水」と名付け、商品が生み出される流れを「アップサイクル型循環システム」として可視化。商品価値を伝えることに努めた。

「インナーブランディングにも着手しまし

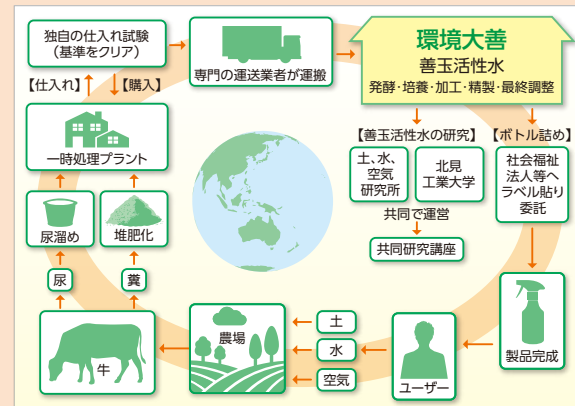
ここが注目ポイント

「牛の尿」をアップサイクルした
安全で高い効果の
消臭液を開発

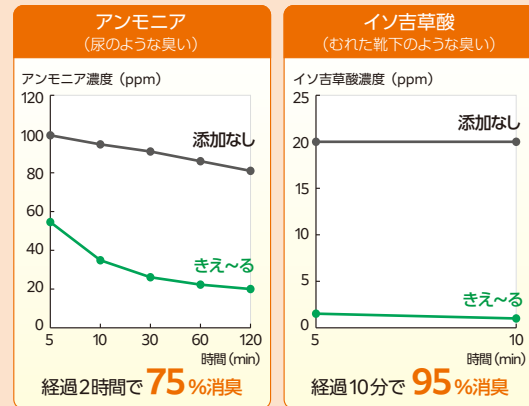
エビデンスづくりと
インナーブランディングで
商品価値を“伝える”ことを強化

地域の課題を解決し
産業創出と雇用促進に貢献

「きえ〜る」のアップサイクル型循環システム



悪臭物質に対する消臭試験結果の一例



消臭液「きえ〜る」の原料「善玉活性水」。悪臭を発生させる微生物の増殖を抑えることで、臭いの元から消臭すると考えられている



ホームセンターや量販店で販売されている「きえ〜る」Hシリーズ。トイレ、排水管、水槽、洗濯、ペット、室内、クルマ、介護向けなどをラインアップしている

して廃棄する取り組みが進められていたが、その費用が酪農家の負担となっていたのです。処理済み液体は畑にまくと作物の生育を助けることが知られていたため、処理費用の一助として処理済み液体を肥料として販売できないかということでした」

「この時、牛の尿が原料であるにもかかわらず処理済み液体が全くの無臭であることに驚いた前代表は、消臭効果に着目。自ら試してみるとペットのトイレや生ゴミの悪臭まで消えた。顧客から消臭効果の高い商品が欲しいという要望があったことから、安全性試験を経て消臭液「きえ〜る」を商品化し、ホームセンターで販売を開始。2006年の定年退職を機に消臭液事業の権利を譲り受け、同社を創業した。

「「公害のもとが公害を制す」というキャッチコピーで注目を集め販売も順調でしたが、商品の優位性が小売店や消費者に広く伝わるまでには至っていませんでした。そこで、父から事業を継承したのを機に、さらなる売り上げ拡大に向けて課題解決に取り組みました。まず「ユニーク商品」の域を出ず、牛の尿が原料というだけで敬遠されるのを防ぐためエビデンスが不可欠と判断。北見工業大学との共同研究で「きえ〜る」の効果を本格的に分析し、知財取得も積極的に進めました。また、エビデンスの精度を高めるための自社研究機関「土、水、空気研究所」も新設しました」

「商品の価値を顧客に伝えるには社員がそれを理解していることが必須です。そこで『発酵経営の書』を作り、朝礼で読み合わせを実施しています。また、単に情報を「伝える」だけでなく、相手に真意が「伝わった」状態をゴールとするコミュニケーションを推進するため、社員からその事例を収集し、ノウハウとして蓄積・共有しています」

「同社の世界観を表現したパッケージへと刷新した結果、売り上げはリブランディング前比で70%アップし、販路も全国に拡大した。リブランディングへの投資は中小企業にとってハードルが高いが、確かな成果につながっている。また、生産量が増えることで地域経済への貢献度も高まっている。原料となる牛の尿は複数の酪農家から買い取り、地元の運送業者に運搬を委託。商品パッケージのラベル貼りは地元の社会福祉法人に発注するなど、新たな収益や雇用を創出している。

「現在『きえ〜る』は台湾や韓国、ベトナムなどアジアを中心に海外輸出も展開しています。善玉活性水を活用した水質改善や、競馬場等の芝生育成に活用する土壌改良材など、新たな用途開発も拡大中です。『オホーツクから世界へ』を掲げ、これからは廃棄物を活用したアップサイクル型循環システムで地域課題と環境問題を解決し、持続可能な社会づくりに挑戦し続けます」

* アップサイクル：従来廃棄されていたものに新たな価値を付加して再利用すること

2025年の住宅リフォーム市場規模は7.5兆円と推計 2026年は7.7兆円を予測 —— 株式会社矢野経済研究所

矢野経済研究所は国内住宅リフォーム市場に関する調査を実施し、現況、参入企業の動向及び将来展望を明らかにした。それによると、2025年の住宅リフォームの市場規模は前年比2.5%増の7兆5,119億円と推計。2026年は資材費・人件費高騰の影響でリフォーム工事単価が上昇し、市場規模拡大が見通され、7.7兆円と予測した。

■市場概況

団塊ジュニア世代の持ち家がリフォーム適齢期を迎えることなどを背景に、リフォーム需要は堅調に推移していると見られる。2025年の分野別では「増改築に関わる費用」が前年比22.1%減、「設備修繕・維持関連費用」が同4.7%増、「家具・インテリア費用」が同2.5%増となった。

■注目トピック

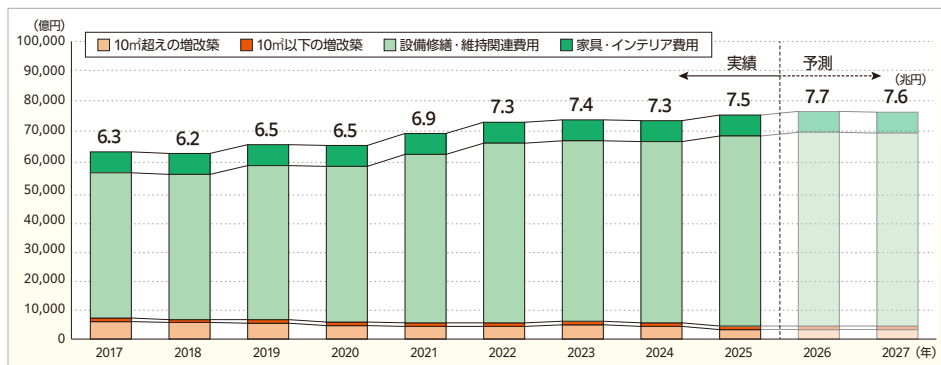
中東情勢の緊迫化がもたらす住宅リフォーム市場への影響については、先行き不安から工事を先延ばしにする消費者層が一定数存在する反面、さらなる価格上昇や供給停止を懸念して早期発注に踏み切る層もあり、市場全体として需要の

大きな落ち込みは見られないとしている。

■将来展望

2026年の住宅リフォーム市場は、懸念材料はあるものの現時点では影響は軽微にとどまると見ている。資材調達の大規模な停滞が生じなければ、底堅い需要に原価上昇分が反映され、同年の市場規模は前年比増加で推移する見通し。中東情勢が深刻化し、資材や住宅設備機器のサプライチェーンが寸断された場合には、市場規模が大きく下振れすると予測する。

■住宅リフォーム市場規模推移と予測



注1 国土交通省「建築着工統計」、総務省「家計調査年報」、総務省「住民基本台帳」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（全国推計）」を基に矢野経済研究所推計
注2 2026、2027年は予測値

「住友林業の家」のCO₂排出削減量からJ-クレジットを創出 ～売却益を定期的にオーナーに還元する「住友林業省エネ住宅倶楽部」を発足～ —— 住友林業株式会社

住友林業は、居住によるCO₂削減量を可視化し「住友林業の家」のオーナーが環境貢献を実感できる仕組みを構築するため、「住友林業省エネ住宅倶楽部」を発足。「住友林業の家」は一般的な住宅と比べてエネルギー効率が高く、高い省エネ性能を備えている。同倶楽部では、こうした住宅性能によるCO₂排出削減効果を環境価値として「J-クレジット制度」*1により一括でカーボン・クレジット化する。

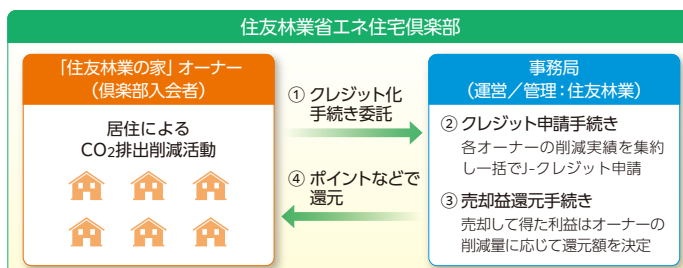
創出したクレジットは住友林業名義で第三者へ売却し、売却益をCO₂削減量に応じて年1回、各オーナーに分配する。住宅メーカーによる省エネ型のJ-クレジット創出と削減量に応じた定期的なオーナーへの還元は業界初の取り組みとなる。

■「住友林業省エネ住宅倶楽部」概要

BELS*2の評価により、一般的な住宅と比較したCO₂排出量の差分から削減量を算定し、J-クレジットを創出する。

開始日	2026年7月1日
入会対象者	住友林業が建築した戸建注文住宅／戸建分譲住宅を所有し、自ら居住する個人のオーナー（その他、諸要件あり）
認証対象期間	対象住宅への入居／倶楽部への入会のいずれか遅い日から最大8年間
実施地域	全国（沖縄を除く）

■排出削減活動から還元までのスキーム図



*1 J-クレジット制度：省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO₂などの排出削減量や、適切な森林管理によるCO₂の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度

*2 BELS：建築物の省エネルギー性能の評価及び表示を機関が公正かつ適確に実施することを目的とした、表示告示で規定される第三者による評価

編集室より

■ 弊社ホームページにPDF版を掲載中です。

住友林業 建材マンスリー

検索



■ 送付先の変更、広告掲載・誌面に対するご意見などは以下までご連絡ください。

メールアドレス：kenzai-monthly@sfc.co.jp

住友林業株式会社 木材建材事業本部 業務企画部

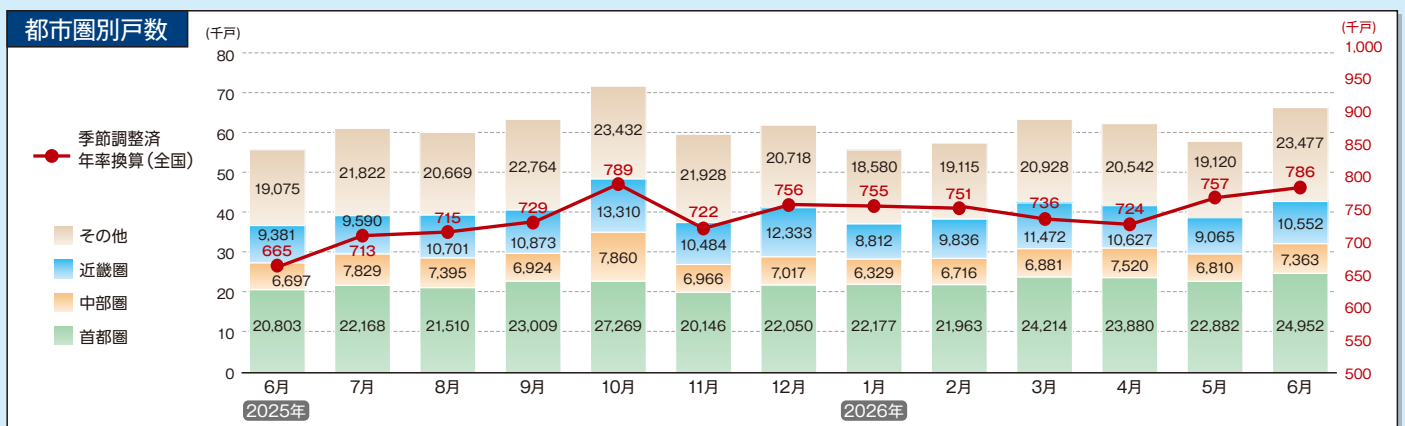
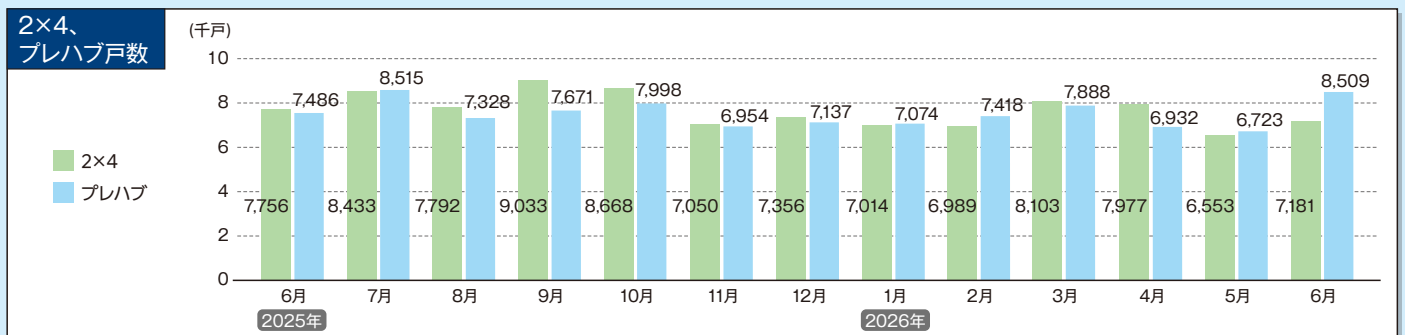
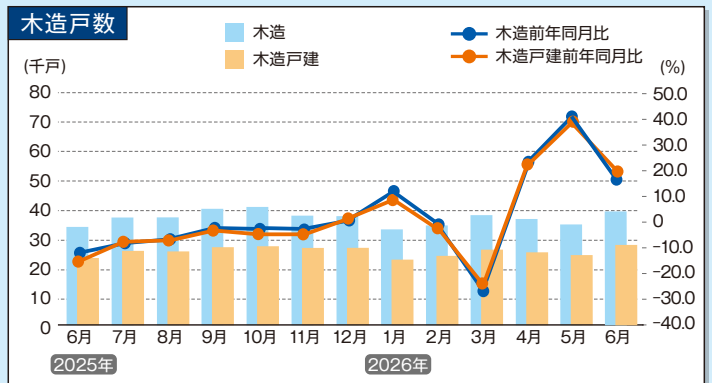
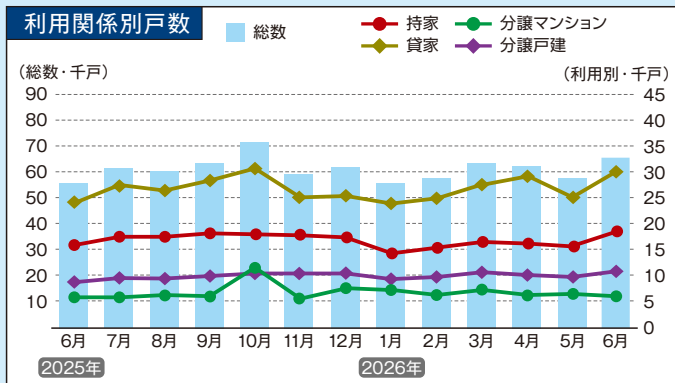
表紙：住友林業（株）住宅事業本部 東京中央支店 蒲田展示場

* 家具などのインテリア品は実際の展示と異なる場合があります

「聴竹居」は、少し坂を上った場所にありました。「天下分け目の合戦」で知られる天王山を背に、桂川・宇治川・木津川の合流地点を望む絶景を借景にしているとのこと。その雄大な景色を屏風絵のように見せるのが、縁側の横連窓です。日本の住まいの理想形を求めた聴竹居は、100年近く前の住宅とは思えない和モダンな空間で、当時は珍しかった冷蔵庫や電気式暖房機器を備えたオール電化だそう。「温故知新」の精神で、ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。(E)

2026年6月の新設住宅着工戸数 単位：戸 ▲は減

		6月					5月	4月	3月
		対前年同月比			対前々年同月比				
新設住宅計		66,344	10,388	18.6%	57	0.1%	57,877	62,569	63,495
建築主別	公共	1,047	250	31.4%	470	81.5%	427	1,342	1,584
	民間	65,297	10,138	18.4%	▲ 413	▲ 0.6%	57,450	61,227	61,911
利用関係別	持家	18,553	2,523	15.7%	▲ 630	▲ 3.3%	15,708	16,296	16,659
	貸家	30,253	5,964	24.6%	2,020	7.2%	25,175	29,265	27,678
	給与住宅	327	▲ 235	▲ 41.8%	▲ 183	▲ 35.9%	394	306	628
	分譲住宅	17,211	2,136	14.2%	▲ 1,150	▲ 6.3%	16,600	16,702	18,530
	うちマンション	6,048	103	1.7%	▲ 2,193	▲ 26.6%	6,575	6,293	7,463
	うち戸建	10,861	1,940	21.7%	854	8.5%	9,824	10,156	10,806
資金別	民間資金	60,447	9,951	19.7%	▲ 1,109	▲ 1.8%	52,929	56,206	57,035
	公的資金	5,897	437	8.0%	1,166	24.6%	4,948	6,363	6,460
	公営住宅	545	▲ 173	▲ 24.1%	73	15.5%	387	935	1,495
	住宅金融機構融資住宅	1,373	▲ 78	▲ 5.4%	▲ 163	▲ 10.6%	1,169	1,221	1,229
	都市再生機構建設住宅	472	472	—	472	—	0	361	0
	その他住宅	3,507	216	6.6%	784	28.8%	3,392	3,846	3,736
構造別	木造	39,407	5,613	16.6%	1,048	2.7%	34,645	36,559	37,883
	非木造	26,937	4,775	21.5%	▲ 991	▲ 3.5%	23,232	26,010	25,612
	鉄骨鉄筋コンクリート造	221	▲ 317	▲ 58.9%	▲ 203	▲ 47.9%	216	216	287
	鉄筋コンクリート造	17,778	3,927	28.4%	▲ 764	▲ 4.1%	16,057	18,553	17,844
	鉄骨造	8,919	1,169	15.1%	7	0.1%	6,927	7,213	7,462
	コンクリートブロック造	10	▲ 7	▲ 41.2%	▲ 23	▲ 69.7%	22	15	13
	その他	9	3	50.0%	▲ 8	▲ 47.1%	10	13	6

(出典：国土交通省ホームページ http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku_list.html)

étagère～エタジェール～



Store Smart, Live Better

“賢く収納して、より良い生活を”



住友林業クレスト株式会社

<https://www.sumirin-crest.co.jp>

